

60  
1368

60-1368  
1200501272991

創立三十周年記念院誌

日本赤十字社北海道支部病院編



始





昭和十年九月十五日

十 創立二十周年記念院誌

日本赤十字社北海道支部病院





創立三十周年紀念院誌



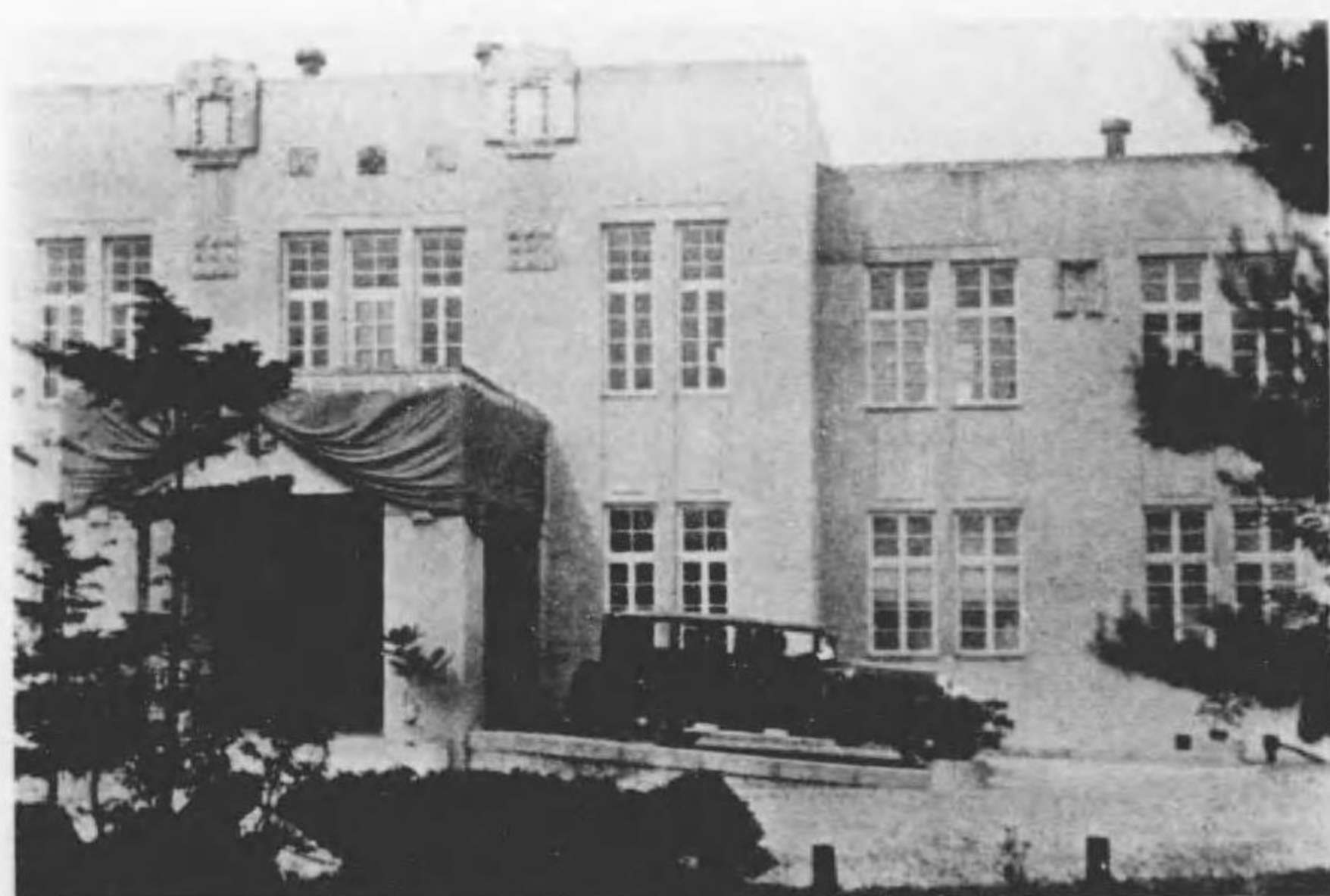


裁  
仁  
親  
王
求仁志不違

總裁宮殿下御染筆



大正十五年總裁宮殿下御臨



昭和六年總裁宮殿下御臨







一孫儀長部支代初



一信井笠長部支代二第



治舜尾宮長部支代三第



平嘉岐土長部支代四第



藏健川中長部支代五第



廣牛田澤長部支代六第



雄秀田池長部支代七第





長副代初  
治 正 本 橋



長副代二第  
郎 次 勇 崎 尾



長副代三第  
一 教 部 服



長副代四第  
吉 佳 能 得



長副代五第  
郎 五 吉 森 大



長副代六第  
輔 文 濟 百



長副代七第  
平 長 川 細



長副代八第  
夫 壽 林



長副代九第  
郎 太 勝 田 吉



長副代十第  
郎 太 康 田 吉



長副代一十第  
茂 山 西





(幌 札) 院病假部支道海北社字十赤本日



事主代初  
郎 太 慶 部 服



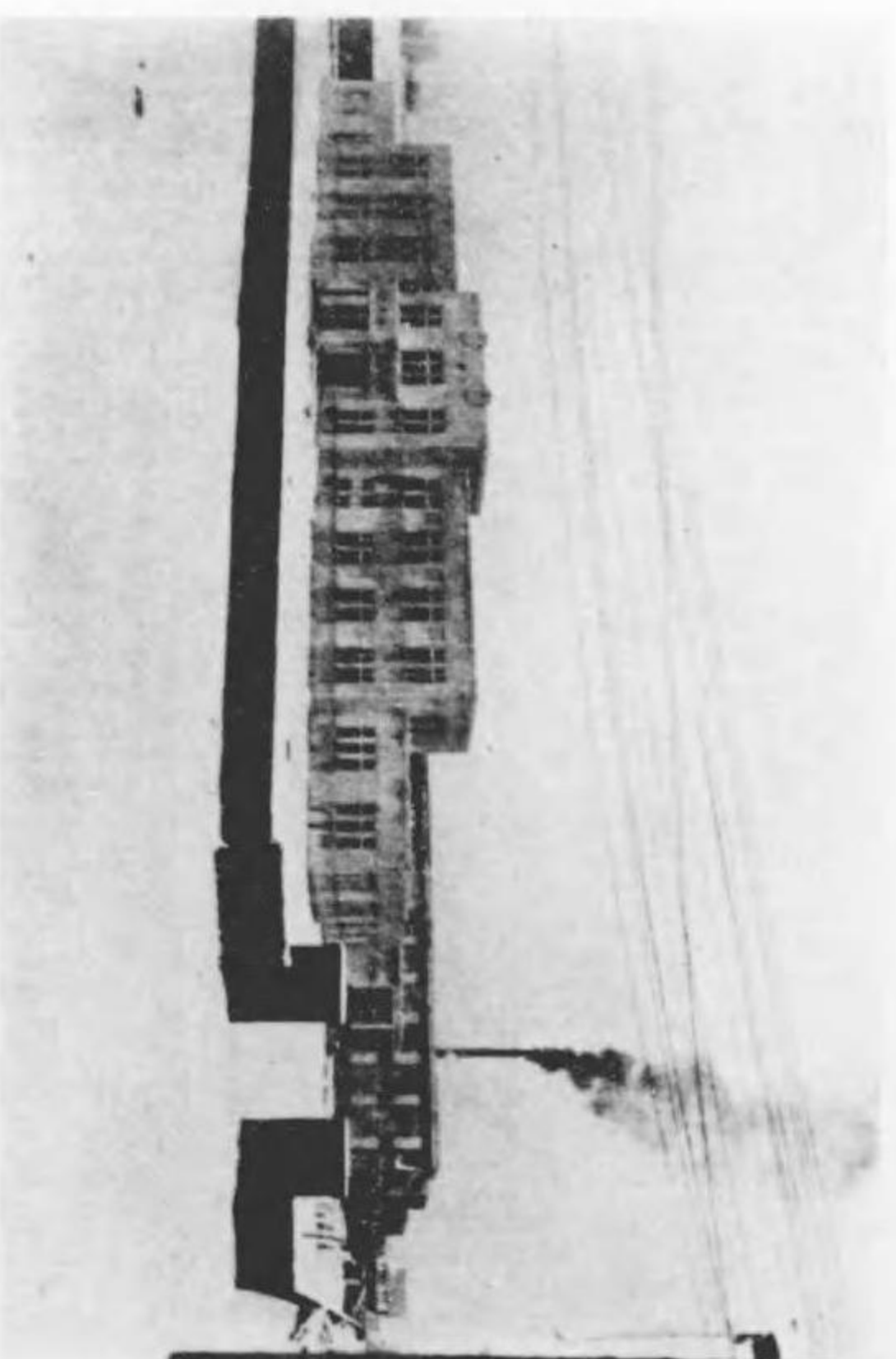
事主代二第  
義 正 田 前



事主代三第  
勇 野 上



一 長 院 病 前  
保 井 士



(時常轉移川旭) 院病部支道海北社字十赤本日





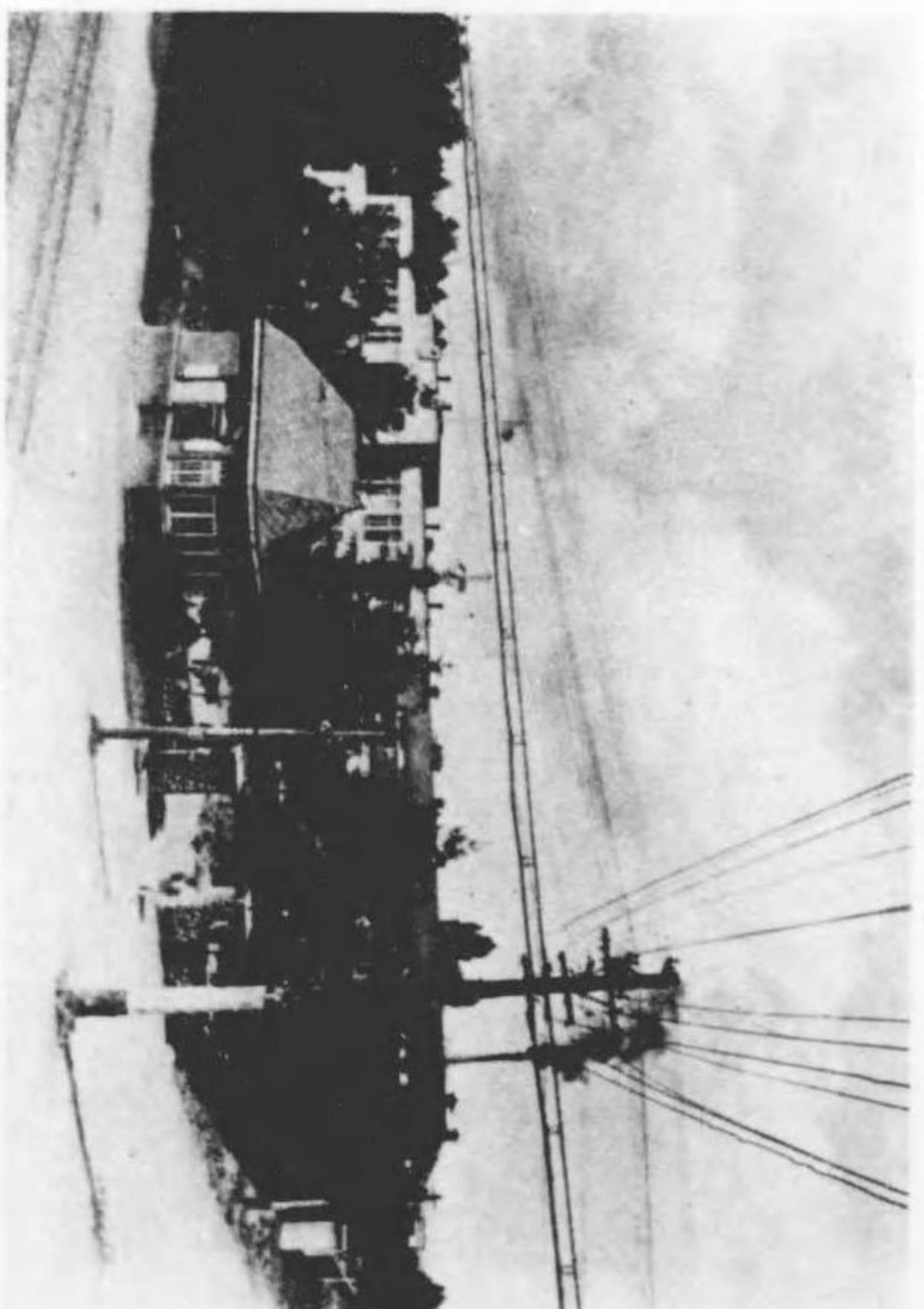
長岡 忠 充  
副 村 現 中



前田 喜 寛  
主 藤 現 近



長岡 信 一  
長 部 支 現



(川池) (在現) 院病部支道海北社字十赤本日

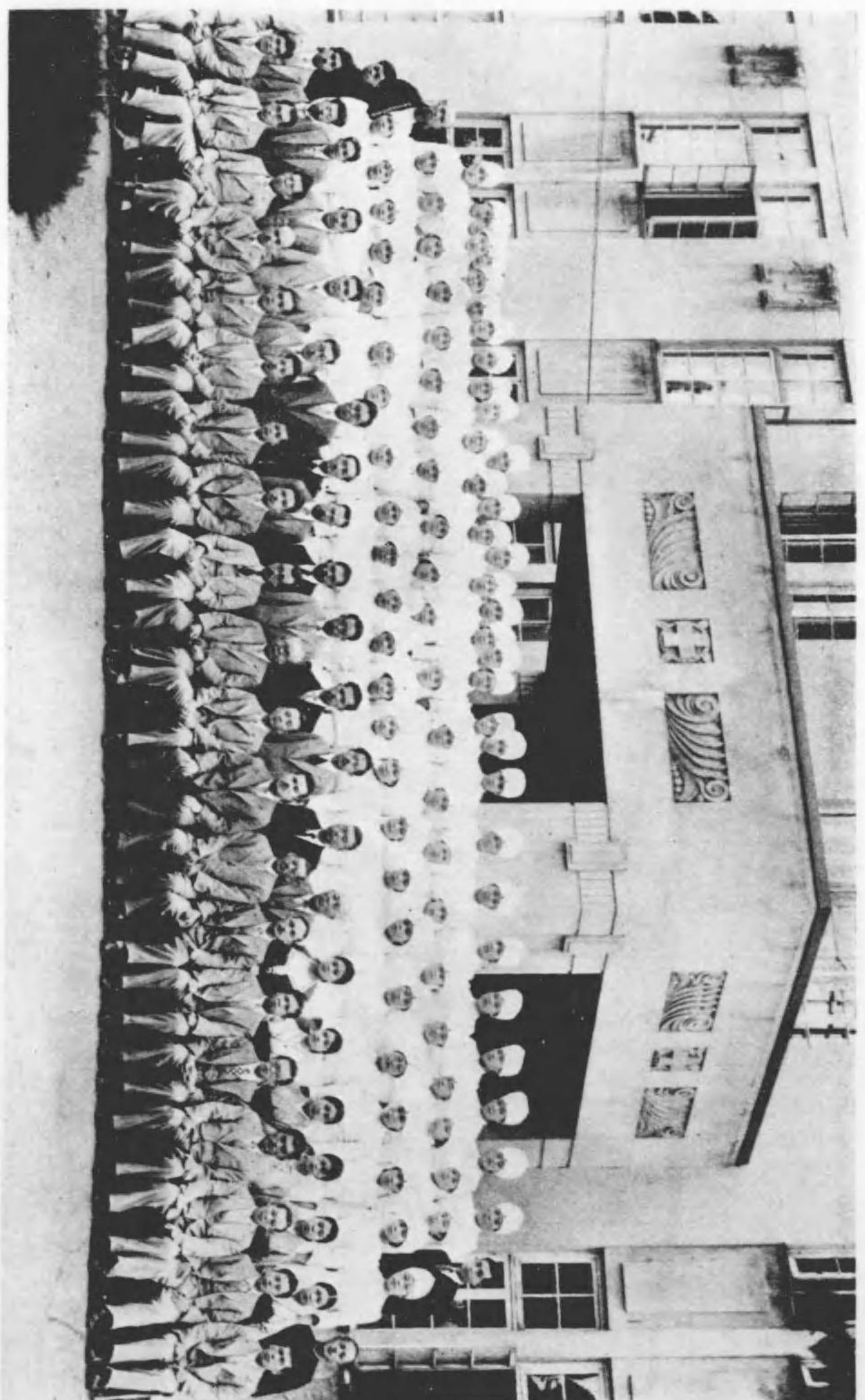


長岡 隆 義  
院 病 現 桑



長岡 隆 義  
院 病 現 桑





同日赤十字社北海道支店職員一員同





昭和八年十二月二十二日  
皇后陛下御下賜 溫服傳達式



伊澤ノキス救護



滿洲事變○師團出征時救護



60-1268

# 目次

## 口 繪

- 一、總裁殿下御染筆及台臨
- 二、歴代支部長
- 三、歴代副長
- 四、札幌假病院・旭川移轉當時の病院・前院長・歴代主事
- 五、現病院・支部長・副長・主事・院長・副院長
- 六、現職員一同
- 七、病院事業の一部

## 記 事

- 一、目的……………一
- 二、皇室の恩答……………一
- 三、本院の設置沿革大要……………一
- 四、病院の位置及院内の設備……………四
- 五、養成業務……………六



イ、救護看護婦の養成	六
ロ、救護看護婦長候補生教育	九
ハ、救護員特別教育	一〇
ニ、看護婦復習教育	一〇
ホ、看護婦助手教育	一〇
六、診療概況	一一
七、救護事業	一四
イ、戦時救護事業	一四
ロ、災害救護事業	一五
ハ、平時救護事業	一五
ニ、結核豫防撲滅事業	一六
八、庶務	一七
イ、表彰	一七
ロ、參觀者	一八
ハ、赤十字デー	一九
九、經理	二〇
十、現職員生徒	二三
十一、舊職員	二八

## 一、目的

日本赤十字社は赤十字條約に基き、我 皇室の眷護の下に立ち、陸軍・海軍・内務各省の監督を受け、戦時に在りては陸海軍の傷病兵を救護し、平時に在りては災害救護の任に當るのみならず、尙、進て人類の健康と幸福とを増進するを以て目的とす。本院はこの目的のため、本社救護員養成の機關として設立されたるものにして、平時は其の必要の爲し、一般患者の診療、並に貧困患者の救療につとめ、戦時に方りては其の病舎の全部若は一部を陸海軍傷病兵の收容に提供す。

## 二、皇室の恩眷

日本赤十字社は皇室の恩眷を辱ふること頗る厚く、本院に於ても開院以來 總裁閑院宮殿下の 台臨を辱ふること大正十五年九月八日及昭和六年七月十二日の二回に及べり。殊に昭和三年以來毎年歳末に當り、本院入院救療患者に對し畏くも 皇后陛下より温服御下賜の恩命に浴せり。

## 三、本院の設置沿革大要

日本赤十字社北海道支部病院設立の計畫は、明治三十九年の頃より提唱せられしが、大正四年西久保支部長時代に至



り漸く建設費十八万餘圓を以て札幌に設置するの計畫成り、本社の承認を経たり。而して其の建築落成に至る迄の間は、假病院を創設することとなり、同年十月十五日を以て札幌北二條西二丁目元逸見病院を買収しこれに當てたり。

其の後既定計畫たる病院建設の地札幌は、市立札幌病院の外大小私立の病院少からず、加之北海道帝國大學醫學部附屬醫院の大規模に計畫設立せらるゝこととなりたるを以て、此上に支部病院を設立するに於ては衛生機關過剰の現象を呈すべく、他面旭川には、當時公立の病院存せず、殊に第七師團所在地たる關係と、赤十字病院の使命及本道衛生機關の分布上、旭川に設置するを妥當なりとする見地より、茲に設立地變更の議起り、大正七年十一月漸く本社の承認を経諸般の準備を遂げ、大正十一年九月二十八日北海道廳令病院規則に基き本病院設置の許可を受くるに至れり。こゝに於て旭川市より提供せられたる同市有地一萬坪（内六千坪は寄附、四千坪は低廉なる有償貸付）を敷地とし、建築費總豫算六十万八千餘圓を以て、大正十一年六月工を起し、同十二年十一月竣成せしを以て、札幌に於ける、假病院を閉鎖し、同年十二月一日を以て、新病院に移轉開院せり。札幌假病院時代に於ける診療科目は内科・外科・産婦人科の三科に過ぎざりしが、旭川移轉後に於てはこれに、小兒科・耳鼻咽喉科を加へ、更に大正十五年四月眼科を増設し、各要所に職員を増置するに及び、病院としての規模漸く整ひ、諸般の設備も亦充實し、遂に現況を見るに至れり、今其の消長の大觀に資せむが爲、各年に於ける診療患者數並に經費額を擧ぐれば次の如し。

札幌假病院創設後現在に至る院況大觀

年次	外來患者延人員	入院患者延人員	病入院	費出	備考
大正四年	七、七五	一、六七	二、三六	一、三六	

同	五四、二七八	一四、六五	三六、二三〇〇	三六、二三三〇〇	
同	五七、七七五	二四、七五八	四八、四〇〇・四六	四八、四〇〇・四六	
同	五九、五九九	二八、二五〇	六二、五三・八三	六二、五三・八三	
同	四八、七七一	二七、五七六	七四、九五・二九	七四、九五・二九	
同	四七、七三七	二六、六六六	一〇三、二八・九五	一〇三、二八・九五	
同	四八、五四三	二五、八六六	九七、〇四・二七	九七、〇四・二七	
同	五〇、〇九三	二六、八二六	九六、四八・六一	九六、四八・六一	
同	四六、七二五	二二、〇一一	二六、九八・三三	二六、九八・三三	
同	二九、八九〇	四八、八七三	二五、四七・五三	二五、四七・五三	
同	二八、三九九	五五、九七〇	二七〇、九七・九七	二七〇、九七・九七	
昭	二五、三三〇	五〇、二四九	二四三、七三・四八	二四三、七三・四八	
和	二四、九七七	五二、〇九一	二九〇、六五〇・三四	二九〇、六五〇・三四	
同	一四〇、三八〇	五五、四九八	二六六、七八・八二	二六六、七八・八二	
同	一三三、五七三	四四、五八三	二八二、三四九・二五	二八二、三四九・二五	
同	一六、六六六	四三、八一	三二七、七〇・〇七	三二七、七〇・〇七	
同	二六、七五八	五三、〇一一	二二五、七五・四七	二二五、七五・四七	
同	一六三、一五一	六一、六二〇	二四一、九一〇・三〇	二四一、九一〇・三〇	
同	一九一、〇四二	六一、〇八四	二七八、七五・五六	二七八、七五・五六	

大正十二年十二月旭川に移轉



#### 四、病院の位置及院内設備

本院の位置は旭川市一條通西一丁目にして、市の西南に位す。旭川驛を西に距ること約十町なり。開院當時の建築物は延建坪千八百九十一坪三合六才とす。陸屋根式にして、其の構造は鐵筋「コンクリート」帳間煉瓦積とし、表面へは防水塗工を施せり。室内は「リノリウム」敷、特種の室は「タイル」及人造研出しとす。各室には蒸氣暖房及給水の設備を爲し、炊事は蒸氣炊爨式を採り、便所は總て水洗式とし消毒淨化して構外へ排出せしむ。其の建物を大別すれば、本館・第一號病舎・第二號病舎・結核病舎・隔離病舎・手術室・試験室・炊事室・機關室・消毒室・洗濯所・寄宿舎等なり。爾後汚物焼却所・食堂・患者専用洗濯乾燥場等を設置し、尙寄宿舎・機關室の一部を増築し、昭和五、六年に於て第一號及び第二號病舎・結核竝に隔離病舎の各陸屋根上に日本屋根を架構へ、浴室・物置・自働車庫を増改築し、各廊下床上「リノリウム」敷を行ひ、尙第一・第二病舎階上を連絡する廊下を増設せるを以て總延坪數二千五百五十八坪九二となれり。通信は電話外線三線交換臺を置き、各所に私設電話二十五機を構へ通話を便にす。病床は總數百九十四床にして、之に收容すべき患者の定員區分左の如し。

病舎名	等級別	室數	床數	收容定員
第一號病舎	特等	一〇	四	一〇
第二號病舎	二	一四	二八	二八
第三號病舎	三	一八	二六	二六
結核病舎	各	八	一四	一四
隔離病舎	各	六	一二	一二
計	各	六〇	一九四	一九四

職員住宅は旭川市榮町西一丁目に在り、病院の北方道路を隔て、隣接す、甲號舎四戸、乙號舎八戸、丙號舎四戸、合計十六戸なり。



## 五、養成業務

### 1、救護看護婦の養成

本院に於ける日本赤十字社北海道支部委託にかゝる救護看護婦の養成は、大正四年假病院設置と共に開始せられ、以て今日に及べり。  
 同生徒修業年限は三ヶ年にして、最近志願者の資格を高め、高等女學校卒業並之と同等以上の學力あるものと認むるものより試験の上採用せらるゝことゝなれり。  
 養成教育は、本社の主義精神を基礎として、人格を陶冶し、救護員として必要なる技能に練達せしめ、平戦兩時に於て能く其の任に堪へしむるを以て主眼となす。  
 而して一年生は講堂教育を主とし、二、三年生は實務練習を主として之を實施しつゝあり。其の教育擔任者次の如し。

昭和十年度 救護看護婦生徒學術科教授擔任者表

國	修	教	科	目	身	託	氏	名
同	嘱	託	同	北海道旭川高等女學校長	教諭	寺山吉平	和	田
同	嘱	託	同	北海道旭川高等女學校長	教諭	寺山吉平	和	田

赤十字事業の要領	陸海軍制規及衛生勤務の要領	看護歴史	人体の構造及其作用	繃帶	同	同	患者運搬	看護法	同	治療法	同	治療法	手術介介	細菌學の大意及其消毒法	傳染病及其他の疾病	按摩法	按療器械の解法	外科傷法	救急法	衛生學	藥物及生劑	食物調理學	心學	
養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記
事務長	陸軍上等看護長	陸軍一等軍醫	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記	養成部書記
神谷龍生	山本茂	三浦外次	佐々木	武井竹	里見	山本	小山	山本	山本	桑島	高橋	内野	里見	菅野	同	山本	田中	里見	菅野	高橋	三浦	井上	佐々木	
明治郎	明雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄	一雄







在職看護看護婦中より選擇し本社病院に在學せしめらる。目下本院より派遣中の者一名にして、其の卒業後當院に婦長として在職せる者二名なり。

#### ハ、救護員特別教育

本教育は、病院在職の救護員をして、救護看護婦生徒養成上必要なる事項を修得せしむる爲本社に於て昭和九年より開始せらる。

之を研修員及修業員の二に分ち、研修員は救護醫長若は救護醫員を以てし、修業員は救護看護婦長若は救護看護婦を以て之に充てらる。其の教育期間は前者概ね十四日間、後者、概ね四ヶ月間なり。

本院在職のものにして、本教育を受けたる者醫長一名、醫員一名、救護看護婦二名なり。

#### ニ、看護婦復習教育

本教育は、赤十字精神の體得、既修學術に對する復習は勿論、新智識を與へ以て人格及學術技能の向上を期せんとするに在り。毎月教育豫定表を作り院長以下職員其の教授を擔當す。

#### ホ、看護婦助手教育

看護婦助手の教育は、赤十字精神を體得せしむると共に之を有資格の看護婦と遜色なき程度に教育せんとするに在り。毎日全員に對し、午後六時より一時間乃至一時間半の教育を實施しつゝあり。適當の時期に於て北海道廳施行の看護婦試験を受験せしめ、之に合格し看護婦免狀を得たる者に對しては本院看護婦に任用の途を開き居れり。

## 六、診療概況

本院開設以來、診療を請ふもの時に一進一退なきにあらざるも、年を逐ふて其の数を増加するの傾向を示す。而して開院當初にありては、市内の受診患者は郡部のそれに比し、稍其の數少なきの感ありしも、前年來健康・災害・簡易保険の被保險者・各共済組合・鐵道公私患者の診療を擔任するに至り、市の内外を問はず患者數特に増加の趨勢に在り。

抑々旭川の地たる、本道の中部に位し、人口八万、四隣主要の農村に接し、外に鐵路四通の便あり。近接農村の患者は勿論、北は樺太・宗谷線、南は函館本線瀧川以北・富良野線等より、東は網走・名寄・石北線、西は留萌線等に依り、來りて診療を請ふもの多し。

而も市内街路坦々、自動車の便あり。加ふるに昭和四年市内電車開通し、赤十字病院前下車、直ちに本院の正門に入るを得べし。

之を既往に鑑み將來を稽ふるときは、本院の前途極めて有望多端なると共に、其の使命の達成に邁進すべく、更に職員の熱誠努力に待つべきところのもの多しとす。

病症に於ては、累年の實況に徴するに、其の第一位を占むるものは呼吸器病にして、榮養器病・泌尿器病等之に亞けり。



救療殊に貧困患者の救療に關しては、本社趣旨を體し、所轄町村長・保障委員・警察官より證明、或は申告あるもの、及び北海道廳令に基き提出する治療券、或は恩賜財團並に舊土人の治療券、結核撲滅事業に於ける結核病患者等に對し、無料若は輕費を以て通院又は入院せしめ、一般患者と同じく、診療を加へ居れり。加ふるに近時財界の不況或は農村連年の凶作等により求療の途に窮せる患者に對し、輕費若は無料診療の途を開き、今日に及べり。其他、公共若は任意團體の需に應じ隨時醫員看護婦を派遣し、災害其他各般の救護に従事せしめ、或は無料巡回診療を行ひ、或は衛生講習會の開催に際し、職員を派遣し、又愛國婦人會北海道支會の需に依り定時職員を派し兒童の健康相談に應じ居れり。

今大正四年札幌假病院開設以來昭和九年に至る診療患者の數を表示すれば次の如し。

診療患者表

年 度 別	取 扱 區 分		普 通 患 者		救 療 患 者	
	入 院	外 來 區 分	實 數	延 人 員	實 數	延 人 員
大 正 四 年	一〇九	一、六三三	一、四四七	七、六八八	四	五三
同 五 年	六九	一四、一〇〇	六、六八八	五三、六七七	一六	五〇五
同 六 年	一、〇四三	二二、六七三	六、六一一	五八、八四三	三五	一、〇八五
同 七 年	一、二四四	二七、五三三	七、五三六	五八、二四一	二七	七三七
同 八 年	一、二二七	二六、六九九	六、三九一	四八、一六三	一九	八七七

同 九 年	一、二三三	二五、五八五	五、八三三	四七、一八五	二八	一、二〇一	五八	五五三
同 十 年	九九四	二五、三〇七	五、二六六	四七、三三二	三	五五九	七八	一、三三二
同 十 一 年	九二七	二五、六八八	四、六六六	四八、七四五	三〇	一、二二八	四九	一、三四八
同 十 二 年	九五五	二二、二八〇	七、四八五	四五、三三四	四四	一、七三三	五七	一、三九一
同 十 三 年	二、六一	四五、六二七	一七、一三一	一三三、七五三	八八	三、三四六	二九五	四、五八六
同 十 四 年	二、六二六	五三、四二九	一五、八四四	一三三、六七九	五七	二、五五九	二七八	六、二二一
昭 和 元 年	二、五九〇	五〇、一四四	一四、五六七	一一、〇八	六八	一、二二〇	三六一	七、三四一
同 二 年	二、六六三	四九、〇五九	一五、七九九	二九、一七六	五五	一、一九〇	二八一	六、四四八
同 三 年	二、七四五	四九、〇九六	一五、五五六	二八、五二九	七五	一、九九五	三七九	六、四四八
同 四 年	二、七三三	五〇、五三四	一六、六六六	一三三、二八八	二九	九六四	五〇一	八、〇九三
同 五 年	二、二九三	四一、九〇一	一四、八八八	一六、四四四	二九	三、六八二	四七四	七、二二九
同 六 年	一、九四七	三八、六七五	一二、八三三	一〇五、二四五	一七六	五、一三六	六六五	一一、四四一
同 七 年	二、三三四	四三、四九一	一四、〇六八	一三三、六二七	三三四	一〇、五三二	六九八	一三、一三二
同 八 年	二、四七〇	四八、六二七	一六、三三七	一四、二二九	四八二	一三、九九三	一、三九五	二二、九二二
同 九 年	二、六六六	五二、九九六	一八、〇一五	一七六、二六二	三四一	一〇、〇八八	六二四	一四、七八〇



## 七、救護事業

### イ、戦時救護事業

日本赤十字社の主たる目的は、戦時に於ける傷者病者を救護するに在るを以て、平時より其の対策なかるべからず、則ち戦時救護規則を設け、平時より戦時に必要な救護員を充實し、救護材料を整備し、之が格納保全に努め、戦時事變に際して編成整備を完結せる救護團體を派遣し、陸海軍の衛生勤務を補助するの準備を有せり。従て本院は、救護員養成の機關として北海道支部の分擔に屬せる救護看護婦の定員に缺陷なからしめんが爲、年々支部の募集せる十數名の生徒を收容し之を養成す。其の養成開始以來の卒業者數一五〇名なり。

戦時事變に際し、本院養成の救護看護婦にして召集を受け其の任務に就きたる者左の如し。

召集年	勤務場所	職	氏名
大正八年	浦鹽斯德	看護婦長	安宅ネキ
同十年	同	看護婦	澤崎ミツ子
同十年	同	看護婦	中崎綾ノ
同十年	同	看護婦	青野ユキ
昭和七年	廣島衛戍病院	看護婦	平田秋之

同	同	同	尾田勝江
同	同	同	相庭元惠
同	同	同	佐藤千代

### ロ、災害救護事業

本事業は、戦時救護の目的のため平時より訓練せられたる救護員を、直に災害地へ派遣し以て罹災者の救護に任せしむるものにして、本院より派遣せられたる災害救護の主なるもの左の如し。

召集年月	災害	派遣員
大正十二年九月	關東大震災	醫員四名、調劑員二名、看護婦長一名、看護婦八名、看護婦生徒十一名
同十四年六月	岩見澤大火	醫員二名、看護婦一名、看護婦生徒一名
同十五年五月	十勝岳爆發	醫員二名、書記一名、看護婦二名、看護婦生徒二名
昭和九年三月	函館大火	醫長一名、醫員二名、書記一名、看護婦九名

### ハ、平時救護事業

本事業は、一般民衆の保健衛生上施行するものにして其の種類頗る多し。最近五ヶ年間に於て、支部長の命に依る支



部事業として、又は本院の事業として、或は團體諸會の依頼等に依り實施せる所の救護回数を示せば次の如し。

項 目	昭和					項 目	昭和						
	五年度	六年度	七年度	八年度	九年度		五年度	六年度	七年度	八年度	九年度		
支部主催 無料巡回 診療及衛生講習會	一	六				學校生徒身体検査 視力保存デー							
支廳主催巡回診療						眼科診療							
函館市大火後救護所						ナフテリア豫防注射							
水害救護				二		定期種痘接種							
出征兵見送救護						種痘検査							
防災演習						スキー大會救護							
青調戰鬪演習			一			海水浴救護							
乳兒衛生展覽會						花火大會							
敬老會救護						自轉車競争							
青年訓練大會						野球大會							
産業組合大會						市民陸上競技會							
壯丁豫備検査						旭川新聞 野遊會救護							
兒童榮養検査													

## 二、結核豫防撲滅事業

日本赤十字社結核撲滅準則に基き、北海道支部に於て其の事業を實施せらるゝも、患者の收容は概ね本院へ委託せらる  
其他地方講演に醫長醫員を派遣したること數次に及ぶ。

## 八、庶務

### イ、表 彰

「ナイチンゲール」石黒記念牌授與

本記念牌は、本社に於て、日本赤十字社看護婦奨励の爲石黒子爵指定の寄附金を基本とし、「ナイチンゲール」石黒記念牌資金特別會計規則を設定し、且附與内規を設け、日本赤十字社の勤務に服し、又其の監督を受くる看護婦にして、職務に勉強し特に患者の取扱に親切なる者を詮考して附與せらるゝものにして、明治四十三年九月制定以來本院在職者中授與せられたる者左の如し。

大正十一年二月二十五日	同	元看護婦長	眞田チセ
昭和六年二月十一日	同	同	安宅ネキ
同 八年二月十一日	看護婦長	長谷川ヤス	
同	同	小山さと	
同	看護婦長心得	齋藤サヨ	
昭和十年二月二十五日	看護婦長心得	竹原キヨ	

本院に於ては毎回全職員生徒集合の上之が傳達式を舉行せり。



口、参 観 者  
本院参観者表

年 度	回 数	人 員	備 考
大正十二年 度	—	—	十一月三十日院内設備整頓一般に縦覧せしむ。診療諸設備、建築方法の視察者を加へ多数にして人員判明せず。
同 十三年 度	二二	二、一四	北見觀光團、支廳屬、稚内廳立女學校生徒、福井縣技師、慶應大學醫學部教授、長野支部病院外科醫長、秋田眼科醫長、道廳衛生技師
同 十四年 度	一六	九二	八師軍醫部長、釧路市立病院書記長、慶應大學小此木博士、東宮侍醫七師團各隊軍人
同 十五年 度	一六	二五六	北大醫學部教授、第一師團軍醫部々員、岩手支部病院長、樺太病院長消防組
昭 和 二年 度	一五	三四三	道廳警察部長、東京帝大教授、師團將校、支廳長、青年團
同 三年 度	一三	一八三	七師將校、町村衛生主任、女子青年團
同 四年 度	一二	四七五	青森縣立病院事務長、北大醫學部學生、陸軍衛生部員
同 五年 度	一四	三九四	樺太廳技師、本社病院研究主幹、札幌鐵道病院外科醫長、旭川師範生
同 六年 度	一七	三五八	

同 七 年 度	一八	八三二	師範學校、中等學校生徒、青年團
同 八 年 度	一六	二九二	女子青年團、小學校上級生、七師軍人將校
同 九 年 度	一七	一、三二七	青年團、中等學校生徒
合 計	一七六	六、六六六	

ハ、赤 十 字 デ ー

赤十字に對する一般の認識を深からしめんが爲に本社が昭和八年より施行し來れる赤十字デー(自十一月十五日三日間)に於て本院は左の事項を實施せり。

- (一) 赤十字デーの式を舉行す
- (二) 赤十字章入「ネクタイピン」の販賣
- (三) 本社配布の「ポスター」を病院各所に掲ぐ
- (四) 本社配布の「リーフレット」を一般に配布す
- (五) 赤十字旗を掲揚す
- (六) 入院患者に記念菓子を贈呈し夜間は患者慰安會を開催す
- (七) 外來患者及病院來訪者には漏れなく記念マツチを配付す



## 九、經 理

本院は特別會計にして、其の會計年度は曆年を以てす。則ち自給自足の方針の下に歳計を按排し之が調節宜しきを制せざるべからず。

假病院は大正四年札幌に開設せられしも、其の診療科目は内科外科産婦人科の三科に過ぎず、規模狭小にして設備亦完からず、赤十字診療機關としての適當なる機構を缺きしことを俟たず。設置の初年十月以降の歳入は、主要財源たる患者の收入其の他を合し壹萬壹千餘圓なりき。第二年に於ては參萬六千餘圓となり、職員之努力と熱誠とに倚り逐年信用を博し歳入を増加し、旭川移轉の大正十二年に於ては拾貳萬六千餘圓に達するに至りたり。然れども其の間本病院新設の計畫ありしが爲限局せられたる範圍の活躍に止まらざるを得ず、動々もすれば收支の均衡を失ふの憾あり、若干の債務を負ふの止むを得ざるものありき。旭川新築病院は假病院に比し規模擴大され、小兒科・耳鼻咽喉科を設置し次で眼科新設され、職員之増置と設備之充實とに依り、移轉開院の初年たる大正十三年の歳入は一躍貳拾五萬壹千餘圓に達し、昭和九年に於ては貳拾七萬八千餘圓となれり。此の間に於ける患者收入は、最少昭和六年の拾七萬餘圓同七年の拾九萬壹千餘圓を除き毎に貳拾萬乃至貳拾四萬八千圓の間を上下せり。昭和六、七年に於ける患者收入の減少は一般財界の不況と本道主要作物の凶作とによるべきも、他面院舎の改修築も病客減少の上に少からざる影響を及ぼせるものと認めざるを得ず。院舎の改修築は當時に限らず、建築上の缺陷より已に移轉直後にして、其の必要に迫らるゝものありたるが如き狀況にして、連年之が爲に巨費を要し、彼此相俟つて財政經理上幾多苦心の存する

部	入				部		
	計	基金部	臨時	時			
收入	計	繰入金	繰替借	補助金	寄附金	計	合 計
五、二一	二五八、六三・八		五、〇〇〇・〇〇	七、三〇〇・六		一三、三〇〇・六	二七〇、九七一・七
六、七三	二四九、六八・三		五、〇〇〇・〇〇			五、〇〇〇・〇〇	二五四、六八・三
八、四三	二二二、五六・四	六、一六五・〇〇	五、〇〇〇・〇〇			一一、一六五・〇〇	二四三、七二一・四
〇〇・〇〇	二三四、九〇・八	六、五四〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	一九、一五・五〇		五五、六七〇・五〇	二九〇、六五〇・三〇
〇〇・六九	二五八、一七・八	三、九六〇・〇〇			四、六五〇・〇〇	八、五六〇・〇〇	二六六、七二・八
八五・八三	二二二、三四・〇	四、三三〇・〇〇		四〇、一四九・五〇	四、五五・七〇	四八、九八五・二〇	二八二、三四九・三五
九七・九六	一九四、六六・五	四、三三〇・〇〇		二二、九八五・二二	五、七八・一〇	三三、〇八三・二二	二二七、七〇〇・七
一四・二三	一九一、七二・三				二四、四八五・一五	二四、四八五・一五	二一七、二三五・四七
三・二七	三三九、九四・六				一一、九六四・〇〇	一一、九六四・〇〇	二四一、九一〇・〇〇
	三三五、〇〇・六				五、七四六・四〇	五、七四六・四〇	二七八、七五六・六六



6 7 8 9 10 11 12 3 4 5 6 7 8 9 10

自大正四年度 昭和九年度 歳入歳出表

年 度	常 部					臨 部				
	補助金	寄附金	患者収入	牧事収入	雑収入	基金部	繰替借	補助金	寄附金	計
大正										
正										
九	5,000.00		31,266.91	2,909.12	5,529.55	7,863.05				7,863.05
八	5,000.00		32,366.00	6,089.55	6,390.00	5,625.00				5,625.00
七	5,000.00		36,666.00	1,766.77	9,940.00	2,533.92				2,533.92
六	5,000.00		33,466.00	3,100.70	8,000.00	61,333.83				61,333.83
五	5,000.00		36,266.00	4,000.00	9,966.66	7,000.00				7,000.00
四	5,000.00		37,000.00	5,800.00	10,666.66	11,466.66				11,466.66
三	5,000.00		38,666.00	6,666.66	11,666.66	12,666.66				12,666.66
二	5,000.00		39,666.00	7,666.66	12,666.66	13,666.66				13,666.66
一	5,000.00		40,666.00	8,666.66	13,666.66	14,666.66				14,666.66
昭和										
五	5,000.00		41,666.00	9,666.66	14,666.66	15,666.66				15,666.66
四	5,000.00		42,666.00	10,666.66	15,666.66	16,666.66				16,666.66
三	5,000.00		43,666.00	11,666.66	16,666.66	17,666.66				17,666.66
二	5,000.00		44,666.00	12,666.66	17,666.66	18,666.66				18,666.66
一	5,000.00		45,666.00	13,666.66	18,666.66	19,666.66				19,666.66
計	1,000.00		328,833.95	60,000.00	55,333.95	328,833.95				328,833.95

年 度	常 部					臨 部				
	診療費	財産管理費	患者収入	資金移積	計	研究費	住宅	借費	繰替借	計
大正										
正										
九	9,866.50	496.66	1,975.55	2,084.40	11,333.11					11,333.11
八	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
七	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
六	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
五	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
四	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
三	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
二	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
一	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
昭和										
五	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
四	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
三	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
二	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
一	3,333.30	496.66	1,666.66	7,777.77	4,444.44					4,444.44
計	328,833.95	4,966.66	60,000.00	55,333.95	328,833.95					328,833.95

假病院は大正四年札幌に開設せられし、其の診療科目は内外科産婦人科の三科に過ぎず、規模狭小にして設備亦完からず、赤十字診療機関としての適當なる機構を缺きしことを俟たず、設置の初年十月以降の歳入は、主要財源たる患者の収入其の他を合し壹萬壹千餘圓なりき。第二年に於ては參萬六千餘圓となり、職員之努力と熱誠とに倚り、逐年信用を博し歳入を増加し、旭川移轉の大正十二年に於ては拾貳萬六千餘圓に達するに至りたり。然れども其の間本病院新設の計畫ありしが爲限局せられたる範圍の活躍に止まらざるを得ず、動々もすれば收支の均衡を失ふの憾あり、若干の債務を負ふの止むを得ざるものありき。旭川新築病院は假病院に比し規模擴大され、小兒科・耳鼻咽喉科を設置し次で眼科新設され、職員之増置と設備之充實とに依り、移轉開院の初年たる大正十三年の歳入は一躍貳拾五萬壹千餘圓に達し、昭和九年に於ては貳拾七萬八千餘圓となれり。此の間に於ける患者収入は、最少昭和六年の拾七萬餘圓同七年の拾九萬壹千餘圓を除き毎に貳拾萬乃至貳拾四萬八千圓の間を上下せり。昭和六、七年に於ける患者収入の減少は一般財界の不況と本道主要作物の凶作とによるべきも、他面院舎の改修築も病者減少の上にかからざる影響を及ぼせるものと認めざるを得ず。院舎の改修築は當時に限らず、建築上の缺陷より已に移轉直後にして、其の必要に迫らるるものありたるが如き状況にして、連年之が爲に巨費を要し、彼此相俟つて財政經理上幾多苦心の存する



ものありしも、幸に經常的收支は缺陷なきを得、臨時的費途は之を繰替借に仰ぎ、其の後徐々に之を償却し、又支部の補給を得て之が整理を遂げ、今や往日の苦境を脱し順況に其の歩武を進むるに至れり。  
 當院開設以來の歳入歳出並に昭和九年末の收支貸借財産の狀況別表の如し。

昭和九年度病院收支貸借表

勘定科目		借方	勘定科目		貸方
常用部經常部	診療費	一二四、三二七・三二	常用部經常部	指定寄附金	一、〇〇〇・〇〇
	財產管理費	四、六三二・六七		患者收入	二四八、〇四七・九五
	患者費	九六、〇五〇・一七		炊事場收入	六、〇九〇・〇七
	常用部臨時部			雑收	五、三一四・一九
繰替借償還		五三、七四六・四〇	常用部臨時部		一八、三〇四・三五
基金			補助金		
病院資金支出部			前年度繰越金		四六、一九〇・一七
翌年度繰越金		四六、三七〇・八五	利子收入		一八〇・六八



院長 兼內科醫長  
 副院長 兼養成部長  
 產婦人科醫長 同外科醫長  
 小兒科醫長  
 耳鼻喉科醫長  
 眼科醫長  
 藥劑師  
 事務員  
 醫師  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同

(休暇中)

醫學博士 桑島要  
 醫學博士 里見義一  
 醫學博士 安部新太郎  
 醫學博士 武井竹雄  
 醫學博士 田中孝壽  
 內野孝  
 三浦英次  
 神谷龍生  
 菅野保次  
 高橋隆策  
 黑澤忠雄  
 横山壽郎  
 長谷川一男  
 近藤秀二  
 松尾家壽雄  
 三ヶ田彰  
 綠柱武雄

醫師 花輪音三  
 同 石崎秀雄  
 同 澁江北海  
 同 村上文夫  
 同 淺井尚  
 同 上田新三  
 同 小濱惣三郎  
 同 田中茂  
 同 菊池晃  
 同 水野重國  
 同 津野正作  
 同 島崎元治  
 同 佐々木明  
 同 山本次郎  
 同 守田徳次  
 技術員 稻邊潔  
 看護婦長 小山さとし

(休暇中)

花輪音三  
 石崎秀雄  
 澁江北海  
 村上文夫  
 淺井尚  
 上田新三  
 小濱惣三郎  
 田中茂  
 菊池晃  
 水野重國  
 津野正作  
 島崎元治  
 佐々木明  
 山本次郎  
 守田徳次  
 稻邊潔  
 小山さとし

### 十、現職員生徒

(昭和十年八月一日現在)

### 財産目録 昭和九年度 (昭和十年一月末日調)

種別	金額	種別	金額
土地	六九、〇〇〇・〇〇	現金	七三、七七六・二三
建物	六二六、九八七・四一	現替	二五、四九四・三九
備品	一三三、六四九・〇一	合計	九四一、二四一・九二
圖書	一二、三三四・八八		

病院常備資金支出 翌年度繰越金	五二、八九九・七七	病院常備資金收入 前年度繰越金	五一、四六六・五一
高	三七八、〇二七・一八	利子収入	一、四三三・二六
縮		高	三七八、〇二七・一八
		縮	



















同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

護

婦

君大篠貝村岡鈴瀬鈴小柿都齋高田勝西森遊眞安長横  
島津本沼松田木川木田崎谷藤橋中見村佐田宅谷山  
コセミソトサツク瀧ヤチ千チアイヒチマチネキ  
イトンチカサ(小島)マ(高橋)エヤ代カサ(豊田)ト(和歌山)ヨ(渡)スセキスヨ

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

五八 五 四 五 四 五 四 四 十 十  
年 年 年 年 年 年 年 年 三 四  
五三 一五 八 十 五 四 三 十 三 九  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

九八 七 六 五 九 六 三 十 十  
年 年 年 年 年 年 年 年 三 三  
三七 六四 一九 三一 十 七 六 五 四 三 一 一 十二 六 三 八  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

護

婦

長

師 手 記

寺澤小成吉石岩平久上小原和飯須松石濫酒内太富橋  
尾林田井原本澤慈田池田藤野井田井田田樫木  
トミフキ惣まき虎治守マ敏ミコ百滋林左喜可彌實  
メツサク豊六る一信藏エ寛(白倉)子(宇高)江子郎郎藏一一範

同同同同大昭大 同昭同同同同同同同同同同同同同同同同同大

正和正和 和 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
十 八 十 五 四 七 十 五 三 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
年  
七 三 五 四 十 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

昭同同同大 同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同大

和 正 和 正 和 正 和 正 和 正 和 正 和 正 和 正 和 正 和 正  
三 十 十 八 九 七 四 三 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
年  
二 六 四 九 十 三 五 六 五 三 五 四 八 八 一 九 四 一 一 一 一  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月







同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

小千麻荒坂佐高山中海橋鈴古松小正藤千山鈴山檜芳  
野田本東藤須下谷木林本野田田葉木木崎山住  
ミキはタタ千キハ静芳ミ美ハ繁ハシ芳かあキ留  
ツヨなヨカ代サコ子君子ナ惠エ愛井ルエ枝よめノ子

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

五三 五七 六三 七 四 六五 二五 六五 六  
年年 年年 年年 年 年年 年年 年年 年年  
九三四 三三 三三 三 三 三六 三三 三一 三  
月月 月月 月月 月 月月 月月 月月 月月

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

八 七  
年 年  
十 六 三 一 十 九 八 四 三 二 十 九 六  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同看

護

婦

佐千吉木淵塚山千山橋皆横大牧櫻小西本島豊本岩茨  
藤葉田村野田岡葉村本川澤塚井野部堂崎川間井城  
サケブ ユキ美ヒ幸ヤイナつ千ヒ千千ガつふヨサヒ  
クエいリミ和デ子ス村トイ地ぎ代テ代代柳シなみシヨ操サ

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同昭

和

五二 四二 四 三二  
年年 年年 年 年年 月  
四三四 三三九 三 三三  
月月 月月 月 月月 月月

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同昭

和

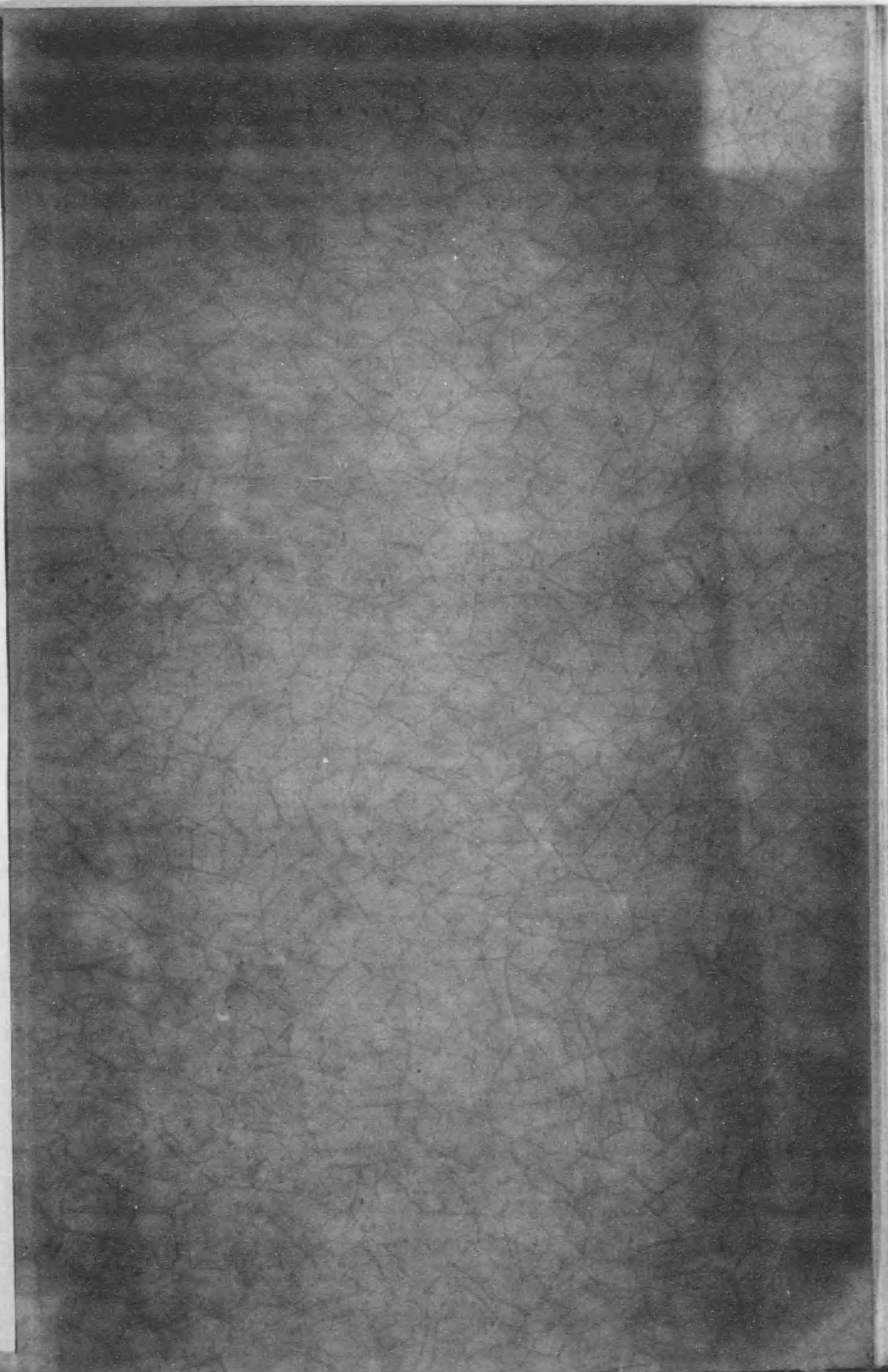
六 五 四三  
年 年 年年  
四 三 九 六 四 三 二 十 九 六 四 三 一 九  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月







60  
368





終